

平成29年度 学校自己評価表 (最終評価)

鳥取県立倉吉総合産業高等学校

中長期目標 (学校ビジョン)	年度当初				今年度の重	
	1. 誠実な心を育て、たくましく生きる力を養い、個性豊かな人間形成を図る。 2. 実践的な学習をとおして、創造する喜びを体験するとともに自主・自律の態度を養う。 3. 様々な教育活動をおとして、他人を思いやり、友情を育み、心身ともに健全な態度を養う。 4. 望ましい勤労観・職業観を育て、地域産業を支える人材を育成するとともに地域の発展に貢献する。	現状	目標(年度末の目指す姿)	目標達成のための方策		経過・達成状況
1. 心身ともにすこやかな生徒の育成	<p>生徒一人ひとりを活かす人間教育を促進し、いじめや差別のない望ましい人間関係を構築していく。</p> <p>低学年からの意識づけを大切にして、正しい倫理観・道徳観を身に付けさせ、基本的生活習慣を確立させる。特に「あいさつ」「服装」「時間を守る」を大切にす。</p> <p>部活動の教育力を活かして、心身を鍛えるとともに基本的ルールやマナーを体得させる。</p>	<p>全校の90%が無遅刻であり遅刻の数はたいへん少ないが、防げる遅刻の割合が多い。皆勤精勤の生徒が増えている。</p> <p>服装、マナー、エチケットは向上しているが、学校外において校内と同じ意識を持つという点では、まだ不十分な面がある。あいさつも声が小さく形だけにとどまっている生徒が増えてきた。</p> <p>自転車の二重ロックと駐輪マナーの指導が評価され、倉吉警察署より自転車盗難防止モデル校の指定を受けた。</p> <p>部活動には90%以上の生徒が加入し熱心に活動している。</p>	<p>○全校の遅刻回数が年間8%(38回)以下となる。</p> <p>○朝読書の時間は全校が静かな環境で落ち着いた読書を行う。</p> <p>○社会人として通用するマナー、身だしなみ、言葉遣い、αのあいさつが実践できる。</p> <p>○いじめや差別のない望ましい人間関係を構築できる。</p> <p>○自分自身が大切な存在であり、また他の人も大切な存在であることを再確認する。</p>	<p>○登校した生徒から読書を開始し、8:30には静かな状態で、遅刻しにくい雰囲気をつくる。</p> <p>○遅刻者には、時間を守ることやSHRに出席することの大切さを本人・保護者に伝える等、安易な遅刻・欠席が減るよう、その都度指導する。全校で決めた数値目標を達成しようと努力することが学校の一人としての意識の高さであることを伝えていく。</p> <p>○図書館において各種イベントを企画し、図書館の利用と読書の推進に努める。</p> <p>○学校生活や実習をとおして、5Sの徹底に努める。</p> <p>○生徒会で「あいさつ週間」を設定し、生徒自らあいさつをすることを促す。</p> <p>○毎月の服装指導で身だしなみの点検を行い、いつでも就職試験が受けられる姿の確認をする。</p> <p>○校外での服装・あいさつを含むマナーやルールを守るよう日常的に指導する。また、日常会話の中で、正しい敬語が使えるように指導していく。</p> <p>○自転車の二重ロックと駐輪の仕方を指導することで、防犯と公共のマナーを意識した行動が取れるようになる。</p> <p>○生徒の部活動状況について、顧問、生徒会、担任、保護者と連携を密にし、情報を共有して、退部者・未加入者を抑え、加入を促進する。</p> <p>○教職員が一致した姿勢で、機会を逃さず指導を行う。</p> <p>○いじめアンケートを年2回実施し、望ましい人間関係の構築に努める。</p> <p>○性と生を考える学習を促進する。</p>	<p>○遅刻は年間38回以下を目標にしたが、3月8日現在で69回(昨年55回)となり昨年回数をオーバーした。また、内訳では防げる遅刻が31回(昨年24回)で、こちらも昨年を越えてしまっている。</p> <p>○ものづくり企業展示や教員による図書館ミニ講座、生徒作品展示、校内ビブリオバトルなど様々なイベント展示をとおして図書館に通う生徒や新たなジャンルの書籍を手にする生徒が増えている。</p> <p>○生徒会で「あいさつ週間」を実施し、若干の改善がみられた。</p> <p>○服装指導は月1回実施している。再検査の対象者数はのべ192名(昨年235名、一昨年339名)で減少傾向にある。内訳は1年116名(9回実施)、2年49名(10回実施)、3年27名(9回実施)で、学年が上がることにより規範意識は向上しており、服装指導の効果を感じる。</p> <p>○自転車二重ロックについて各学年での取り組みの成果で脱着率99%であった。校外での二重ロックも定着してきた。</p> <p>○部活動加入率は全体95%、1年生98%、2年生90%、3年生96%であった。</p> <p>○いじめアンケートを年2回実施した。数件の事案があった。</p> <p>○1年生・3年生で性教育講演会を実施し性に対する意識を深めた。2年生ではデートDVに関する知識や対応方法について各クラスで学習した。</p>	<p>○8:30には全員が朝読書を行っているよう指導する。</p> <p>○防げる遅刻31件の内訳は、寝坊11件、忘れ物や家庭でのトラブル9件、体調不良が7件、雪によるものが4件だった。生活習慣を整える、体調管理に気をつける、予測し余裕を持って行動する、等を根気強く呼びかけていく。</p>
		<p>○環境に対する意識向上を目指す。</p>	<p>○定期的に環境HRを行い、環境に対する意識を高める。</p> <p>○保健委員の活動によって、クラスでの環境に対する意識を高める。</p> <p>○実習等で排出されるごみの分別を徹底するとともに、分別しやすくする工夫を検討する。</p> <p>○教室等、活動場所・使用場所の整理整頓、清掃活動を徹底させる。</p> <p>○毎日の掃除は時間いっぱい使い、奉仕の心を育む。また、その必要性を説諭する。</p> <p>○紙面を使わず処理できる、Webシステムを構築する。(学校アンケート、授業アンケートをiPadで行う等)</p>	<p>○4月と7月と1月に環境LHRを行った。また、保健委員会も毎月開催し、クラスでの点検を行い環境に対する意識を高めた。</p> <p>○掃除への取組み姿勢にも差がある。声かけをしてもなかなか積極的な動きにはならない生徒も多い中、学校評価アンケートの「積極的に清掃活動を行っている」という質問に96%の生徒が肯定的に答えているのに対して、職員では70%にとどまった。</p> <p>○90%以上を占める清掃場所によっては、時間一杯できていないところがあったが改善に向かっている。</p> <p>○学校評価アンケート、授業アンケートをiPadで行うシステムを情報科課題研究で作成していただき、後期のアンケートで利用することができた。作成してくれた生徒に感謝している。</p>	<p>○クラスでの点検は、保健委員を中心に呼びかけやチェックを行う。清掃に関して職員の意識疎通を図り、保健委員の活動の中で清掃場所の点検を行う。</p>	
		<p>○基礎学力の定着と表現力を向上させる。</p> <p>○生徒全員の家庭学習時間が平日1時間以上、休日2時間以上を目指す。</p>	<p>○低学年からの進路意識の向上と(インターンシップ・デュアルシステムの充実による)勤労観・職業観を育成する。</p> <p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。</p> <p>○資格指導をとおして家庭学習の機会を増やすよう課題を与える。</p> <p>○基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間を利用して、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝える。</p> <p>○3年生の進路が一段落する12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。</p>	<p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討した。</p> <p>○基礎力診断テスト実施前には事前学習課題を行ない、実施後は各教科・進路部で今後の指導について方策を考え実施した。</p> <p>○学校評価アンケートで、家庭学習時間平均1時間以内が94%(1年生93%、2年生94%、3年生95%)であった。</p> <p>○基礎学力の定着について、学校全体としての組織的な体制づくりが少し形になりつつある。</p>	<p>○個人面談を積極的にに行いながら早期に進路意識が高められるよう指導を徹底する。</p> <p>○企業訪問を行い新規雇用の開拓に努めるとともに本校への支援・協力の輪を広げる。</p>	
2. 夢や希望をかなえられる学校づくり	<p>地域や企業と連携し、実践的な『キャリア教育』を推進し、生徒の興味・関心や適性に応じた進路実現を目指す。</p> <p>資格や検定の取得を促すことで基礎学力の定着と主体的に学ぶ姿勢を育てる。</p> <p>早期に進路意識を持ち就職・進学に対応できる学力を身に付けられるような支援体制を整備する。</p>	<p>具体的進路目標を定めているが、目標のために何をどのように取り組めば良いか計画できない生徒が多い。また、基礎学力の定着や文章力、表現力に不十分がある。</p> <p>就職希望者支援体制については、ほぼ完成されているが、進学者指導に関しては、個別指導に頼る部分が多い。特に4年制大学への進路指導については大学固有の入試制度の研究など支援体制の整備が必要である。</p> <p>各教科で公開授業を計画的に行ってはいないが、教科の枠を超えた組織的な授業研究には至っていない。</p>	<p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討していく。</p> <p>○資格指導をとおして家庭学習の機会を増やすよう課題を与える。</p> <p>○基礎力診断テストでの調査にある家庭学習時間を利用して、家庭での学習と成績との関連を振り返らせ、家庭学習の大切さを伝える。</p> <p>○3年生の進路が一段落する12月から2年生の進路指導に取り組み、2月学年末考査後には具体的な進路実現に向けて行動できるよう、計画的に個別に指導していく。</p>	<p>○進路部と学年団・各科との連携を密にするとともに、学力分析や指導方法について検討した。</p> <p>○基礎力診断テスト実施前には事前学習課題を行ない、実施後は各教科・進路部で今後の指導について方策を考え実施した。</p> <p>○学校評価アンケートで、家庭学習時間平均1時間以内が94%(1年生93%、2年生94%、3年生95%)であった。</p> <p>○基礎学力の定着について、学校全体としての組織的な体制づくりが少し形になりつつある。</p>	<p>○個人面談を積極的にに行いながら早期に進路意識が高められるよう指導を徹底する。</p> <p>○企業訪問を行い新規雇用の開拓に努めるとともに本校への支援・協力の輪を広げる。</p>	
		<p>○学習指導委員会による進路支援体制を確立する。</p> <p>○授業改善・教科指導力の向上に向けて教師の意識が高まる。</p> <p>○公開授業への教科の枠を超えた参加者が増加し、教員間で授業方法についての研究が進められるようになる。</p>	<p>○進路部を中心に大学進学希望者のための、大学調査・大学訪問を実施する。</p> <p>○合格後も個別指導を継続することにより、進学後に必要な科目の学びに対応できる力をつける。</p> <p>○教科内での授業研究をさらに深めるとともに、他教科の公開授業にも積極的に参加し、授業改善・指導力向上に努める。</p>	<p>○学習指導委員会を開き、生徒の志望動向情報を共有し、指導体制の検討・確認を行なった。</p> <p>○合格後は入試科目に加え、数学・理科・英語等の補習を行い、大学・短大・医療系専門学校への進学生徒の学力保証対策を行った。</p> <p>○進路希望者79名全員合格。専門学校42名、短大14名、4年制大学23名(国立大学8名)。</p>	<p>○学習指導委員会を適切な時期に開催し、職員が共通理解のもと指導体制の検討・確認を行う。生徒に頻りに声かけを行い、担任をはじめ関係職員と連絡を密にする。</p> <p>○ICT活用、協調学習等の視点を定めながら授業公開および研究会を積極的に進め、授業改善に努める。</p>	
		<p>○資格取得を促進する。</p>	<p>○資格取得・上級資格取得のための計画的で充実した補習を実施する。資格試験の情報提供を行う。</p> <p>○多様な進路選択を可能にするためにも資格取得にチャレンジするように促す。</p> <p>○図書館の検定資格取得コーナー、進路や教科指導に関する本を充実させる。</p> <p>○計画的に科内の全職員で資格指導にあたるよう科内調整をおこなう。</p>	<p>○各科とも計画的に資格補習を実施し、例年以上の成果を挙げることができた。</p> <p>○図書館では資格取得に関するコーナーの充実が図られ、生徒からの問い合わせにも対応できている。</p>	<p>○補習の在り方の検討と同時に、学科と教科の連携も確認し、部活動の両立を検討する。</p>	
3. 地域・地元を愛され、信頼される学校づくり	<p>広報活動に力を入れ、学校理解・PRに努めるとともに、地域・産業界との交流を進め相互理解を深める。</p> <p>学校評価を活用しながら教育活動の改善を進め地域からの信頼度を高める。</p> <p>国際理解教育に努め、体験的な学習を取り入れ、実践的な態度や資質、能力を育成する。</p>	<p>中学校へ出向いての学校説明会や本校での学校説明会により中学校教員の本校への理解は進んできた。</p> <p>課題研究等による地域との交流活動が定着し、好感を持って地域に受け入れられている。</p> <p>学校評価アンケートを実施し集計を行っているが、評価結果および分析結果を十分に活用できていない。</p>	<p>○中学生の本校志願者数を増加させる。</p> <p>○中学生体験入学の内容を検討する。</p> <p>○生徒の活動の様子(課題研究・社会人講師など)や学科の取組、部活動の様子等、HPも利用しながら積極的にPRする。</p>	<p>○中学生体験入学は延べ487人(昨年度471人)の参加があった。体験入学後のアンケートで「進路選択の参考になった」と回答した中学生は98.6%であった。</p> <p>○今年度新しく始まった『倉吉ハイスクールフォーラム』に「くらそうや」のメンバーが参加し、「くらそうや」の取り組みなどをしっかりとPRできた。</p> <p>○課題研究のテーマにHPの改善提案の内容を設けHPの改善提案を行い、細かい部分ではあるが、HPの改善を行った。また、学校行事カレンダーも課題研究で作成し、学校のPRの一端を担った。</p> <p>○特定の部活動等では頻りにHPの記事を更新しているが、全体的にはもっと更新記事がほしい。</p>	<p>○中学校へのPR活動を継続していく。</p> <p>○HPが更に充実するよう、内容について見直し・検討を行い、更新に努める。</p>	
		<p>○学校評価の分析を進め改善に活用する。</p> <p>○学校間交流等、国際理解教育を推進する。</p>	<p>○学校評価アンケートを実施し集計後の分析を行う。</p> <p>○学校間交流等をおとして国際感覚豊かな職業人の育成に努める。</p>	<p>○6月の学校間交流ではホームステイ受入れの応募が多くあり、計画どおりに充実した交流が実施できた。また10月の倉経祭においても受入れを行い、国際感覚を養うことができた。</p>	<p>○5月の学校間交流に向けて、事前事後の指導を充実させる。</p>	
4. ものづくり教育の推進	<p>地域産業界や企業等と連携し、専門分野についての基本的知識・技術を身に付け、チャレンジ精神に富んだ人材を育成する。</p> <p>学部の枠を超えて生徒理解を図り、「ものづくり」に協力して取り組む体制づくりに努める。</p>	<p>「ものづくりコンテスト」への取組や社会人講師による指導によって、より高いレベルの技術を習得しようとしている。また、技術を習得するだけでなく、習得した技術を社会に活かそうとする取組も行われている。</p>	<p>○鳥取県電業協会の協力をお願いする。</p> <p>○ものづくりコンテストや社会人講師・技能検定の受検などの取組を通じて技能向上を目指す。</p>	<p>○鳥取県電業協会中部支部とネットワーク会議を構築し、地域産業界との連携を図ることができた。</p> <p>○外部から社会人講師を招聘し、技能指導など生徒の意欲向上につながっている。</p> <p>○昨年度より取り組んでいた大山乳業農産協同組合と連携し開発した商品が販売され、大変好評であった。生徒の職業観育成にもつながった。</p>	<p>○鳥取県電業協会中部支部とのネットワーク会議を引き続き構築し、より高いレベルの技術の習得を目指す。</p> <p>○ものづくりコンテストへの取組を継続し上位入賞を目指す。</p>	
		<p>○学科間連携を促進させる。</p>	<p>○課題研究等をおとし、学科間の連携をめざす。</p> <p>○生徒の実態に合わせて、総合選択制が有効に機能するように選択群のあり方を検証していく。</p> <p>○各科が商品や製作物を提供し、「くらそうや」の活動に協力する。</p>	<p>○課題研究チャレンジショップ「くらそうや」をとおして、他学科との連携がみられた。</p> <p>電気科:「おもちゃの病院」機械科・電気科・生活デザイン科:作品提供</p>	<p>○「くらそうや」の運営や課題研究での協力等、学科間で協議しながら連携をさらに深める。</p> <p>○総合選択制の充実のため、選択科目等の見直しを検討する。</p>	

評価基準 A:十分達成 B:概ね達成 C:変化の兆し D:まだ不十分 E:目標・方策の見直し
 [100%] [80%程度] [60%程度] [40%程度] [30%以下]